The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	報告Ⅴ 東洋文庫所蔵の近代中国資料のデジタル化事業について
Author(s)	相原, 佳之
Citation	OUFCブックレット. 2015, 7, p. 65-74
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51473
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

報告 V

東洋文庫所蔵の近代中国資料のデジタル化事業について

相原佳之

１．はじめに

１）東洋文庫について

公益財団法人東洋文庫は東京都文京区本駒込にある研究図書館である。東洋学分野における日本最古・最大の研究図書館であり，東洋学に関する世界五大機関の一つに数えられる。設立の契機は 1917 年に三菱財閥第三代当主岩崎久彌が，ロンドン・タイムズの特派員や中華民国総統府顧問をつとめたオーストラリア人ジャーナリスト，ジョージ・アーネストモリソン（George Ernest Morrison）の蔵書を購入したことにあり，1924 年，モリソン旧蔵書を基礎に, 岩崎久彌自身が収集した和漢書を追加して, 東洋文庫が設立された。その後も計画的に蔵書が拡充され，現在の蔵書数は約 100 万冊，資料が書かれた言語の種類は約 80 言語にのぼる。東洋文庫では蔵書を閲覧室において無料で閲覧に供しているほか, 客員を含めた約 250 名の研究員による資料研究活動を行っている。また 2011 年には建物の新築にともない「東洋文庫ミュージアム」が同所に開館し，企画展や公開講座などをつうじて，より多くの人々に対して，アジアの歴史や文化に触れる機会を提供している。

２）東洋文庫 NIHU 現代中国拠点（東洋文庫現代中国研究資料室）について

東洋文庫には，人間文化研究機構（略称は NIHU）との共同研究組織として現代中国研究資料室が設置されている。

NIHU では 2007 年度に地域研究推進事業「現代中国地域研究」を開始した。共通テーマは「現代中国の学際的研究――新しい大国をどう捉えるか」であり, 現在早稲田大学を中心拠点に, 京都大学, 慶應義塾大学, 東京大学, 総合地球環境学研究所，東洋文庫，愛知大学，法政大学，神戸大学の 9 拠点が連携して研究を行っている。設置から 2012 年 3 月までの第 1 期事業に引き続き，2012 年 4 月より 2017 年 3 月までの予定で，現在第 2 期事業が進行中である。

東洋文庫現代中国研究資料室は，上記事業により 2007 年に設置された拠点である。研究図書館に設置された拠点であるという特性を生かし，とくに資料研究に重点を置き, (1)現代中国の構造的・歴史的な研究に必要な一次資料を収集すること，(2)資料の長期的系統的分析による現代中国変容を解明すること，(3)上記の目的に合わせ国内外諸機関との連携を行っていくことを目標に掲げている。

具体的には，江南地域社会班・図画像資料班・ジェンダー資料班・政治史資料班・1950 年代資料班という 5 つの資料研究班を設け，資料室所属の各研究員が諸機関･大学の研究者と連携しながら資料研究を進めている。また, 東洋文庫所蔵の近現代中国に関連する資料について, デジタル化してインターネットを通じて公開する事業も行っている。

本報告では，東洋文庫現代中国研究資料室が，このデジタル化事業をどのように進めてきたのかを述べ, またそこから得られた知見や将来にむけての課題などについても触れていく。

２．現代中国研究資料室による近現代資料のデジタル化

現代中国研究資料室では, これまでに 3 つのデジタルコンテンツを公開し

てきた。以下，公開開始の年代順に記していく。

１）図書資料公開ライブラリー（東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー）

本資料室が最初に公開したデジタルライブラリーであり，2012 年 1 月に 124 タイトルで公開を開始した。その後計画的に公開数を増加し, 2014 年 12 月現在，489 タイトル 39,916 画像を公開中である。

公開する資料は，旧近代中国研究委員会（現・近代中国研究班）収集の日本語資料 20000 件あまりのなかから，以下の公開方針に基づいて選んでいる。

まず, インターネット上で公開するに際して著作権上の問題がないことが大前提である。そして，他機関ですでにデジタル化していないことを原則としている。現在，国立国会図書館・アジア経済研究所・国立公文書館アジア歴史資料センターなどの機関で戦前期の日本語資料について大規模なデジタル化がすすめられているのをはじめ, 他の図書館のウェブサイトや Google Books などでも資料公開が行われている。これらのサイトですでにデジタル化された画像が公開されている場合, 東洋文庫で同様の作業を行う意義は薄いため，デジタル化の対象から除外している。また同様の理由から，復刻出版されている資料についても除外することを原則としている。

この資料選定方針の結果, 選定された書籍は国内では東洋文庫のみが所蔵しているものの割合が比較的高くなり, 小規模ながら特色あるデジタルライブラリーに仕上がっている。これは他の機関からも高く評価されている部分である。

資料公開には，Infocom 社製のデジタルアーカイブシステム Infolib-DBR（Ver. 1.0）を用いている。同社製の図書館システム Hello Library に附属するライセンスによる使用である。なお，Hello Library は NII（国立情報学研究所）が運営する NACSIS-CAT へ東洋文庫の近代中国関係資料の書誌情報を登録する際に使用している。

デジタル公開に際して作成したデータは，以下のとおりである。(a)公開用

画像（JPEG 画像で作成。文字情報のみのページはモノクロで，地図やグラフなどカラーによる情報があるページは，カラーで作成），(b)メタデータ（CSV ファイルで作成。書誌情報，画像へのリンク URL，検索用目次テキスト，目次情報 HTML へのリンク URL を記入），(c）目次情報（(b)に追加するための検索用テキストのほか，閲覧の便のため別に HTML ファイルも作成），(d)画像公開資料一覧（PDF ファイルで作成）。

これらのうち(a), (b)はデジタルアーカイブシステムに追加し, (c)の HTML ファイルと(d)は FTP ソフトでレンタルサーバーにアップしている。レンタルサーバーへのアップはもちろん, デジタルアーカイブシステムへのデータの追加や更新も, メンテナンス業者やシステム担当者を介さずに行えるため, 追加データが出来上がった場合や, 誤りが発見された時に素早く対処できる利点がある。また，データがシステムに依存しない形式であるため，将来的に他システムへの移行も行いやすい。

現行のこのシステムは, 個別のデジタルコンテンツとして公開するには利便性が高いものの, 他のデータベースとの連繋等を視野に入れた場合には課題もある。一つは，書誌詳細画面への固有の URL が生成されないため，他機関作成のデータベースとの連携が困難な点である。また，メタデータが東洋文庫の書誌情報や NACSIS の書誌情報と独立した CSV ファイルとして存在しているため，書誌情報に変更が生じた場合に，それを手動で反映させる必要がある。このような課題には，他機関や東洋文庫のデータベース担当者と連携をとりながらシステムの改善・入れ替えを含めて検討していく予定である。

２）写真公開ライブラリー（１）柏原英一写真帳

現代中国研究資料室が構築するライブラリーのもう一つの柱として, 写真帳の公開がある。その第一弾が「柏原英一写真帳ライブラリー」である。故柏原英一氏が遺したアルバム，市販のスクラップブックで 7 冊，約 800 枚の写真を 2013 年 8 月に公開した。

柏原英一氏は 1914 年生まれで, 1938 年～1942 年にかけて漢口に駐留して

いた部隊で断続的に報道部員として活動した。写真はこの中国滞在時に氏が撮影し，帰国後に自ら整理したものである。柏原氏が 2009 年に没した後，共同通信の上嶋茂太氏を通じてご遺族から現代中国研究資料室がこのアルバムの寄贈を受け，京都大学地域研究統合情報センターと共同で整理・公開する運びとなった。

現代中国研究資料室では，写真帳を簡便に公開できる方法として，ロゴスウェア社のデジタルブック作成ソフト Flipper U を用いてデジタルブックを作成し，ウェブサイト用サーバーにアップすることとした。ブックの作成に用いたのは，公開用 JPEG 画像と，検索用 CSV ファイルである。検索用には，柏原氏が写真に付した写真解説文をすべて入力した。

このライブラリーは, 簡便なシステムでの写真帳公開の試行事例としての位置付けであった。また，国内・国外の民間に多く所蔵されているであろう同様な個人写真帳を公開するための呼び水となることも期待して, ウェブサイト公開時に情報提供の呼びかけも行った。

なお，公開後の反応として，柏原氏が滞在した漢口のある中国湖北省武漢市からのサイトへのアクセスが非常に多かったことも特筆される。

３）写真公開ライブラリー（２）亜東印画輯データベース

写真帳公開の第二番目として 2014 年 3 月に公開したのが,「亜東印画輯データベース」である。

『亜東印画輯』は，大連に本部を置いた亜東印画協会が 1924 年～1944 年に刊行した写真資料である。1 枚の写真が 100～250 文字程度の解説とともに台紙に貼られ，10 種類の写真を 1 セット（1 回）として購読会員に毎月頒布されていた。内容は，同協会に所属する日本人写真家が中国・朝鮮・モンゴル地域において撮影した風俗や民情, 自然風景, 歴史的建造物などであり，当時の様子を伝える貴重な資料であるといえる。また，印刷写真ではなく現像した生写真を用いている点で, 写真技術等の面においても興味深い資料である。東洋文庫では『亜東印画輯』の第 1 回～212 回（1924～42 年）を所蔵しているが，購入記録等から，同時代的に毎回購入していたことが分かる。

現代中国研究資料室がデジタル公開したのは, 東洋文庫が所蔵する第 1 回〜212 回(1924〜42 年), および京大人文研が所蔵する第 213 回〜230 回(1942〜44 年) である。また, 東洋文庫所蔵分の中で写真が欠落しているものについて, 京大人文研で補充撮影し, 別冊として公開した。分量は 16 冊, 約 2000 枚である。

公開は柏原英一写真帳と同じ手法で, Flipper U を用いてデジタルブックを作成し, ウェブサイト用サーバーにアップした。デジタルブックには, 画像のみではなく, 写真解説文と, 写真一枚ごとのタイトル等を CSV ファイルで追加し, 検索の便を供した。また別に写真タイトル一覧を PDF ファイルで, 全体の入口となるページを html ファイルで作成した。

写真解説文を全て入力し, 検索できるようにしたのは, 本ライブラリーの大きな特色となっている。検索の便を図るため, 旧漢字を中心とする原文どおりのテキストのほか, 新漢字に変換したテキストも追加している。これらのテキスト入力には, 多数の方々の協力を得た。

今後の課題としては, 現在 1 冊ごとにしかできない解説文検索について横断検索を可能にすること, および検索方法の多様化があげられる。多様化の方法としては, 撮影された地点や時期, 撮影者, 被写体の種類などによってタグ付けをすることが, 利用者によりよい情報を提供することになる。またタグ付けに際しては, 他との連携を考え, 普遍的に提供されている共通化したタグを用いることが求められるであろう。

またこのデータベース構築と並行して, 東洋文庫の所蔵する『亜東印画輯』と, 日本大学・東北学院大学・京都大学で所蔵する『亜東印画輯』の撮影画像や現物との比較作業を行った。日本大学文理学部を通じて, 日本大学・東北学院大学所蔵分の撮影画像を提供していただいた。また京都大学地域研究統合情報センターを通じて京大人文科学研究所図書館に便宜を図っていただき, 所蔵する現物を閲覧した。

それぞれの比較作業の結果, 各館が所蔵する『亜東印画輯』に, 書誌情報だけでは分からない違いがあることが認識された。解説文, 写真のトリミング, 写真の残存状況の違いなどである。こうした違いは主として頒布時の版

の違いによるものと考えられ, 未だ不明な部分の残る写真帳の頒布状況を知る手掛かりになる可能性もある。また東洋文庫所蔵のものの一部写真は軍事機密法により剥がされて持ち去られたという記録があるのに対し, 京大所蔵分は剥がされていないということも, 着目すべき情報である。本デジタルライブラリーは, こうした比較作業をするためにも大いに貢献できるであろう。

なお, 現代中国研究資料室では現在, 『亜東印画輯』と同様の工程で同時期に出された写真帳『亜細亜大観』のデータベースを作成中であり, 2015 年 3 月に公開予定である。

4）資料撮影作業について

最後に, デジタルライブラリーを構築するための資料撮影作業についてまとめて述べておきたい。

現代中国研究資料室では, 資料の保存活用やデジタル化を専門とする NPO 法人デジタルヘリテージデザインにデジタル化のコンサルティングおよび撮影・画像加工の実務を委託している。

撮影は, 移送にともなう資料への負担を最小限にするために東洋文庫内の専用スペースで行っている。撮影後には, 保管用として RAW データおよび TIFF 画像, 利活用向けとして圧縮率の低いカラー・モノクロの JPEG 画像, 公開用として加工した JPEG 画像の納入を受けている。画像加工方法は公開方式により変え, 図書公開ライブラリー向けには東洋文庫の透かしを入れた高圧縮 JPEG 画像, 写真公開ライブラリー向けにはデジタルブック作成時に最適な見栄えになるようにトリミング加工した高圧縮 JPEG 画像としている。なお, 画像加工作業も東洋文庫内でおこなっている。

業務委託先の NPO 法人とは, 撮影のみならずコンサルティングを含めておこなう契約になっており, 継続的な関係のもと, 撮影方法, 納入画像の仕上がり, 公開方法などについて常に話し合いをしながら作業をおこなっている。これはデジタルライブラリーを比較的順調に構築できた大きな要因の一つである。

また, 同法人は資料保全技術に関する専門知識を有しているため, デジタ

ル化作業と同時に資料の保全作業も適宜おこなっている。とりわけ 2015 年 3 月公開予定の『亜細亜大観』は，写真や台紙が汚れていたり，写真どうしや写真と台紙が貼り付くなど状態が劣悪であったため, 撮影と併行して大規模に保全作業を実施した。同法人に所属する専門家の手ほどきを受けながら, 東洋文庫の人員が保全のためのクリーニングや, 写真用ゼラチン等を用いた写真補修作業をおこない，デジタルライブラリー公開後は,『亜細亜大観』の原本を貴重書庫に収蔵し閲覧禁止の措置をとることとした。

この事例は，資料の保全とデジタル化を同時に実行できた事例であり，今後も参考にしていきたい。

3．今後に向けて

以上, 東洋文庫現代中国研究資料室がおこなってきた近代中国資料のデジタル化について述べてきた。さまざまな形での協力者に恵まれたこともあり, 小規模ではあるが，特色のあるものが構築できた。

公開後の反応については, 決してアクセスが殺到するほどにはならないが, 一定の評価を得ている。とりわけ，外国語対応のページを作っていないにもかかわらず，中国大陸や台湾，米国等からのアクセスが相当数あるのは，公開している資料が価値をもっているためであろう。また，サーバーの不具合や公開資料の誤りを利用者から指摘されることで, きちんと利用されていることを感じることもある。

今後は，利用者の声に耳を傾けつつ，外国語対応ページの作成や検索方法の多様化などに注力していく必要がある。さらには，公開したデータベースを利用した研究者との緩やかな連携や協力も視野に入れていきたい。

また，東洋文庫の蔵書検索データベースとの連動,「東洋文庫ミュージアム」におけるデジタルコンテンツを利用した展示などをおこなうことで，さらなる利用者の増加を図ることができるであろう。

さらなる課題として，同種の資料を所蔵する機関との連携がある。周知の

ごとく, 近現代に日本の政府や諸機関がアジアと関わるなかで作成された資料は膨大にあるものの, 多くが各地の諸機関に分散所蔵されている。資料のデジタル化と公開を契機として, こうした情報をできるかぎり一元化していくことが求められるであろうし, 実際にいくつかの試みも始まっている。現代中国資料室としては, これまで単独での閲覧を基本に構築してきたデータベースそのものを連携しやすいものに構築し直していくと同時に, 各機関との恒常的な情報交換をさらに積極的に行っていく予定である。

なお前記のように, 現代中国地域研究推進事業の第 2 期は 2017 年 3 月で終了する。その後の事業のあり方については現在検討が進められているが, いずれにしろ構築したデジタルライブラリーのデータや更新作業の引き継ぎが必要になるであろう。今後は諸機関との連携と合わせ, この引き継ぎを支障なく実行するという課題にも対応していく必要があると考えている。

附録：関連 URL 一覧

[現代中国資料室関連]

* 人間文化研究機構（NIHU）現代中国地域研究
  http://www.china-waseda.jp/
* 現代中国研究資料室
  http://www.tbcas.jp/
* デジタルライブラリー集（各デジタルライブラリーへの入口）
  http://www.tbcas.jp/ja/lib/

・東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー
  http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib1/
・柏原英一（1914～2009）写真帳
  http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib2/
・『亜東印画輯』データベース
  http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib3/

[東洋文庫の近代中国資料デジタル化（現代中国研究資料室作成分以外）]

* 全データベース入口
  http://192.168.0.22/db_select.html
  もしくは，東洋文庫 http://www.toyo-bunko.or.jp/　より「蔵書・資料検索」

* 国立情報学研究所ディジタル・シルクロード・プロジェクト『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブ
  http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/
* モリソンパンフレット
  http://124.33.215.236/morison/MorisonListTop.php
* 雑誌『北支』（昭和 14 年～18 年）
  http://124.33.215.236/research/hokushi/hokushi.php
* 中国祭祀演劇関係写真資料データベース
  http://124.33.215.236/cnsaigisaienchigi/chugokusaishiengeki.php
* 中国祭祀演劇関係写真動画
  http://124.33.215.236/movie/index_movie.html
* 中国経済史用語データベース
  http://192.168.0.22/yogokaiopen/index.php